

# 第112回森で遊ぶ会・実施報告書

## (駿府城公園)

1 実施日時 平成24年11月10日、AM10時から12時まで

2 参加インストラクター

担当: 内野 小久保 矢下 高橋

アシスト会員: 青野 井上 大石 越智 上妻 早川 増田

3 参加者 現地募集で13名 (大人 13名、うち3名がリピーター)

4 概要

(1)活動の概要:

- 東御門・巽櫓付近に集合し、①駿府城公園中心部コースと、②お堀の土手沿い周回コースの2つのグループに分かれ、コース沿いの樹木を観察しながら散策した。参加者には希望のコースに参加して頂き、それぞれにインストラクターが同行した。
- 素晴らしい秋晴れと無風という、絶好の条件に恵まれた観察会になった。インストラクターが交代でコース沿いの樹木について、紅葉の仕組みや樹木の特徴、名前の謂われなどを説明した。
- インストラクターは、それぞれの樹木の葉や実の形、構造などの特徴について、その樹木の生活史戦略の観点も交えて解説した。参加者は、普段何気なく見ている身の回りの樹木についても、それぞれが生きるための工夫を凝らしている事を知り、改めて感心したようだった。
- クロマツやゴヨウマツとアメリカ生まれのテーダマツでは松葉の本数が違うこと、ナギは広葉に見えるのに針葉樹であること、ニレ科の木はよく見ると左右が非対称なこと、などが特に参加者の印象に残ったようだ。
- 駿府城公園には歴史を感じさせる巨木が点在しており、また城の遺構も随所に残っている。更に、富士山を望む絶景のポイントもある。インストラクターのガイドでこれらも見て回り、参加者は改めてこの公園の魅力の奥深さを感じたようだった。

今後の活動の資とするため参加者にアンケートを書いて頂いた。

(2)アンケート結果の概要:

- この観察会を新聞記事(朝日、静岡)で知ったという参加者が多かった。
- 観察会は良かった、説明も分かりやすかったという好意的な感想が多かった。
- 樹木の名前を覚えられて良かった、同じように見える木でも丁寧に見ると細かい違いがあることが分かった、食べられる木の実が身近にあることを知った、庭木によく使われる木が分かった、巨木が沢山ある事を知って有意義だった、などの感想が寄せられた。
- また違う季節の様子も知りたい、またこうした機会を作ってほしい、庭木についてもっと教えてほしい、などの要望があった。
- 今後もこうした観察会にできれば参加したいという意見が多かった。

添付写真(駿府城公園観察会)

